

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 11:00~	第 1 日	男子	一回戦
Aチーム 三重県 四日市西	82	$\begin{bmatrix} 26 & - & 21 \\ 24 & - & 24 \\ 15 & - & 19 \\ 17 & - & 7 \end{bmatrix}$	71 Bチーム 静岡県 浜松湖東

両チームともハーフマンツーマンでスタート。四日市西は 荒井、 中西の力強いドライブイン、浜松湖東は 太田のゴール下シュートなどで、互いに譲らず、第1ピリオドを終わって、26-21と四日市西がリード。

第2ピリオドに入っても、 中島、 山本の3点シュートや 荒井のドライブインなどで加点する四日市西に対し、浜松湖東は 本多、 太田のリバウンドシュートやハイロープレーでゴール下を支配しようとする様相は変わらず。50-45と四日市西がリードして前半を終了。

第3ピリオド、引き離したい四日市西はディフェンスの頑張りからルーズボールを支配し、一時はリードを得た。しかし、浜松湖東は 太田の外角シュートを織り交ぜたオールラウンドな活躍で65-64と1点差まで追いつけた。

第4ピリオドに入るとお互いにディフェンスの頑張りを見せ、両チームとも得点できない。しかし、疲れの見えだした浜松湖東に対し、四日市西はリバウンドから中西、 中島らのカットインで一気に10点差をつけ82-71で逃げ切り、2回戦に駒を進めた。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	棚橋英一

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 11:00~	第 1 日	男子	一回戦
Aチーム 愛知県 名城大附	93	$\begin{bmatrix} 26 & - & 10 \\ 20 & - & 17 \\ 21 & - & 14 \\ 26 & - & 24 \end{bmatrix}$	65 Bチーム 岐阜県 岐南工

名城大附オールコートマンツーマン、岐南工2-1-2ゾーンでスタート。名城大附は、富岡のショートコーナーから 山下のハイポストへのハイロープレーで相手のゾーンを崩し、外からは 西澤の3点シュート、吉田の力強いカットインなどで着実に加点し、第1ピリオドは26-10で終了。

第2ピリオドに入っても流れは変わらず、名城大附はオールメンバーチェンジさせる余裕さえ見せる。残り5分、名城大附のタイムアウト後、岐南工は1-2-1-1ゾーンプレスに切り換え、村山の3点シュート、谷村のレイアップなどで追い上げる。残り2分、名城大附はメンバーをスタートに戻し、ゴール下を支配して相手の流れを止め、46-27で前半を終了。

第3ピリオド、岐南工はオールコート1-2-1-1ゾーンプレスで激しく当たり、畑、池田の連続3点シュートなどでチャンスをつかんだかに思えたが、ターンオーバーが続いて得点が伸びない。

第4ピリオド、岐南工は 村山の3点シュート、高井の3本連続ドライブインで75-50とするが、名城大附は控えの選手が着実に加点し、2回戦へと駒を進めた。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	小野卓也

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)	会 場 :			大垣市総合体育館
開始時間: 12:40 ~	第 1 日	男子	一回戦	
Aチーム 静岡県 加藤学園	93	$\begin{bmatrix} 21 & - & 11 \\ 28 & - & 15 \\ 19 & - & 21 \\ 25 & - & 17 \end{bmatrix}$	64	Bチーム 愛知県 岡崎城西

両チームともハーフマンツーマンでスタート。加藤学園は、赴の高さを活かしたポストプレーや、岩城のオフENSリバウンドで流れをつかむ。岡崎城西も、速いパス回しから白井のミドルシュートで得点するが、徐々に加藤学園がリードを広げ、21-11で第1ピリオドを終了。

第2ピリオドに入っても、加藤学園は確実にディフェンスリバウンドを取り、渡邊のカットインや岩城のポストプレーで得点を重ねる。岡崎城西はディフェンスを3-2ゾーンに変え、夏目の連続3点シュートやカットインで流れをつかもうとするが、高さで優る加藤学園が49-26と大量リードで前半を折り返す。

第3ピリオド、岡崎城西は夏目のカットイン、白井の3点シュートで追いかけるが、加藤学園はポストプレーやミドルシュートがよく決まり、相手の追い上げを許さない。

第4ピリオド、加藤学園はスタートメンバーを休ませる余裕を見せ、93-64で勝利し、2回戦進出を果たした。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	岩永英夫

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 12:40~	第 1 日	男子	一回戦
Aチーム 岐阜県 斐 太	78	$\begin{bmatrix} 16 & - & 16 \\ 22 & - & 18 \\ 27 & - & 17 \\ 13 & - & 23 \end{bmatrix}$	74 皇學館
		Bチーム 三重県	

立ち上がりはお互いに動きが固く、攻撃も単調でシュートが入らない。斐太は藤岡のドライブ、小池のリバウンドシュートや3点シュートで、皇學館は岩城のドライブ、安武のポストプレーで得点していく。

第2ピリオド、斐太はディフェンスを2-2-1のプレスに変えて当たりを強め、相手のミス进行、藤岡、小池の速攻につなげペースをつかんでいく。皇學館は越賀の3点シュートやミドルシュートで対抗するも、38-34と斐太の4点リードで折り返した。

第3ピリオド、斐太はプレスから2-3ゾーンで相手のオフェンスリズムを崩し、ターンオーバーから速攻に走って得点を伸ばす。皇學館もディフェンスを3-2ゾーンに変えて流れをつかもうとするが、斐太は藤岡のミドルシュートや新名の3点シュートで相手の追撃を許さず、65-51と14点のリードを奪った。

第4ピリオド、皇學館は3-2ゾーンから積極的にコーナーヘトラップをしかけ、インターセプトから越賀のミドルシュート、高橋の3点シュートで9点差まで追い上げる。斐太はたまらずタイムアウト。その後も皇學館は越賀が連続で3点シュートを決め、残り3分には71-70と逆転に成功する。一進一退の展開となるが、斐太は小池のドライブで再逆転すると、残り40秒で藤岡がドライブからバスケットカウントを決め、追いすがる皇學館を振り切った。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	杉山広之

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 14:20~	第 1 日	男子	二回戦
Aチーム 岐阜県 長 良	87	$\begin{bmatrix} 23 & - & 22 \\ 28 & - & 23 \\ 27 & - & 12 \\ 9 & - & 34 \end{bmatrix}$	91
		Bチーム 三重県 四日市西	

両チームともマンツーマンでスタート。本日1試合目の長良は、立ち上がりの動きが固く、四日市西 荒井、中西のドライブを止められず、流れは四日市西に傾く。しかし、長良も 秋田が高さを活かしてリバウンドやポストプレーで活躍し、浅野、栗田のカットインで流れを引き戻し、23-22と長良1点のリードで第1ピリオドを終了。

第2ピリオドは、お互いの持ち味を發揮。四日市西は、中西、奥の3点シュート、長良は、秋田のゴール下、浅野、栗田のカットインで、得点していく。前半は長良が51-45と6点のリード。

第3ピリオドの立ち上がり、疲れの見える四日市西は3分間ノーゴール。逆に長良はリバウンドからの速攻を次々と決める。リードは20点となり、ゲームは決まったかと思われた。

しかし第4ピリオドに入ると、四日市西はそれまでほとんど決まっていなかった荒井の3点シュートを皮切りに、中島、坪井、中西が次々と3点シュートを決め、残り1分には逆転に成功。そのまま逃げ切り、準決勝へのキップを手にした。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	安藤 聡

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)	会 場 :			大垣市総合体育館
開始時間: 14:20~	第 1 日	男子	二回戦	
Aチーム 愛知県 名城大附	73	$\begin{bmatrix} 18 & - & 31 \\ 19 & - & 29 \\ 17 & - & 23 \\ 19 & - & 24 \end{bmatrix}$	107	Bチーム 静岡県 飛 龍

両チームともハーフマンツーマンでスタート。名城大附は 山下、 富岡のゴール下、飛龍は 山田の3点シュート、 種市のドライブで、得点を重ねる。飛龍は激しいディフェンスからの速攻で、5分には17-10とリード。名城大附はたまたずタイムアウトをとるが、飛龍 山田の3点シュート、 種市のミドルシュートの確率は高く、31-18と飛龍リードで第1ピリオド終了。

第2ピリオドに入り、名城大附も 吉田や 柴田の速攻からのレイアップシュートで追い上げを図るが、飛龍は 李を投入してゴール下を支配し、 杉山が連続3点シュートを決めるなどして、波に乗り、60-37とさらにリードを広げて前半を終了した。

後半に入っても、飛龍のプレッシャーの強いディフェンスは相手を苦しめ、名城大附は4分間ノーゴール。これに対し、飛龍は 大石、 種市が着実に点を重ね、第3ピリオドは29点差をつけて終了。

第4ピリオド、残り2分に飛龍は全員を交代させる余裕の試合運びで、107-73と圧勝した。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	古田憲司

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)	会 場 :			大垣市総合体育館
開始時間: 16:00~	第 1 日	男子	二回戦	
Aチーム 三重県 四日市工	77	$\begin{bmatrix} 24 & - & 14 \\ 15 & - & 13 \\ 21 & - & 14 \\ 17 & - & 25 \end{bmatrix}$	66	Bチーム 静岡県 加藤学園

両チームともオールコートマンツーマンでスタート。立ち上がり、四日市工は 三井がアウトサイドシュートを連続して決め、オフェンスリバウンドでも 河合が頑張り得点を重ねていく。対する加藤学園は 渡邊のスクリーンプレーからのジャンプシュート、 赴のゴール下ターンシュートで応戦。残り1分四日市工が1-3-1ゾーンに切り換えると、加藤学園は対応しきれなくてミスを連発。3連続ゴールを許し、四日市工が10点リードで第1ピリオドを終了。

第2ピリオド、互いにシュートが決まらず、リバウンド争いとなり、お互いセンターが得点しあうのみとなり、39-27で四日市工リードのまま折り返す。

第3ピリオド、加藤学園は2-1-2ゾーンで疲れをカバー。リバウンドからのブレイクで得点をねらった。しかしエース 渡邊が残り5分でファウルアウト。四日市工は 船津の3点シュート3本などの活躍で点差を広げる。加藤学園もタイムアウトをとり、四日市工 船津に対しボックス&ワンで得点を止める。

第4ピリオド、四日市工はディフェンスの当たりを強くし、一気に引き離しにかかるが、ファウルが多くなりリズムがつかめない。加藤学園は 赴のインサイドプレー、岩城の個人技で踏ん張り、追い上げを図るが、四日市工 安藤が確実にジャンプシュートを決め、77-66で四日市工が準決勝へ駒を進めた。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	酒井垂矢

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 16:00~	第 1 日	男子	二回戦
Aチーム 岐阜県 斐 太	45	$\begin{bmatrix} 8 & - & 35 \\ 4 & - & 24 \\ 6 & - & 38 \\ 27 & - & 16 \end{bmatrix}$	113
		Bチーム 愛知県 安城学園	

第1ピリオド、斐太はハーフマンツーマン、安城学園は2-2-1のゾーンプレスでスタートする。安城学園は激しいディフェンスでボールを奪い、3分で13-2と大きくリード。ここで斐太はたまたずタイムアウトをとり、ディフェンスを2-3ゾーンに変えるが、安城学園 伊藤の外角シュート、中野のゴール下シュートが決まり、36-8で第1ピリオドを終了。

第2ピリオド、両チームディフェンスは変わらず。高さで優る安城学園は、中野、永田がリバウンドを支配する。4分で安城学園は選手を全員入れ換える余裕を見せる。その後、斐太はなんとかボールを運ぶが、藤岡のシュートが決まらず、大差で前半を終了する。

第3ピリオドも安城学園のスピードは落ちず、速い攻めと高さで斐太を圧倒する。中野、永田のゴール下、伊与田の外角シュートなどで確実に得点を伸ばし、点差をさらに広げていく。

第4ピリオド、3分ようやく斐太 藤岡の3点シュートが3本決まる。また残り3分にはディフェンスで粘りを見せ、新名の3点シュート、熊崎の外角シュートで得点するが及ばず。結局、高さ、スピードに勝る安城学園が危なげない試合展開で、113-45と圧勝した。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	鈴木ゆかり